

1987年 大会記録

国際

◇メドベジ国際大会=男子フリースタイル（2月27日～3月1日、ソ連・ミンスク）

▼48kg級 小林孝至（ユナイテッドステイール）＝3位、▼57kg級 鈴木康文（自衛隊）＝三失、金浜良（日大）＝二失、▼62kg級 安達巧（日体大）＝2位、吉田実（自衛隊）＝三失、▼68kg級 原喜彦（日体大）＝二失、▼82kg級 赤石明雄（山梨県教委）、菊地隆（和歌山県教委）＝三失

◇全米選手権=男子フリースタイル（4月16～17日、米国・ラスベガス）

▼48kg級 入江隆（自衛隊）＝優勝、東野勝（大東大）＝5位、▼52kg級 佐藤満（日体大助）＝優勝、▼57kg級 朝倉利夫（国士舘大教）＝6位、佐々木一郎（日体大）＝7位、▼62kg級 栄和人（奈良県教委）＝六失、安達巧（日体大）＝優勝、五位塚悟（山梨県教委）＝4位、▼68kg級 原喜彦（日体大研）＝六失、▼74kg級 平山宣伸（日体大研）＝三失、▼82kg級 伊藤敦（日体大）＝7位、菊地隆（和歌山県教委）、▼90kg級 豎山保文（自衛隊）＝二失、赤石明雄（山梨県教委）＝四失、中西学（専大）＝三失

◇コンコード国際大会=男子グレコローマン（5月22～24日、米国・コンコード）

▼48kg級 斉藤育造（和歌山県教委）＝3位、蝦名康一（自衛隊）＝4位、▼52kg級 宮原厚次（自衛隊）＝優勝、▼57kg級 近浦淳二（日大）＝四失、▼62kg級 西口茂樹（日体大）＝2位、▼68kg級 三宅靖志（東海商船）＝3位、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）＝6位、▼82kg級 向井孝博（自衛隊）＝4位、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）＝5位、▼100kg級 近藤務（自衛隊）＝3位

◇世界エスポアール選手権（8月10～15日、カナダ・バーナビー）

《男子フリースタイル》▼48kg級 山下忍（日体大）＝7位、▼52kg級 笹山秀雄（自衛隊）＝優勝、▼57kg級 金浜良（日大）＝3位、▼62kg級 松元大吉（東洋大）＝6位、▼68kg級 嶺岸武（日体大）＝8位、▼74kg級 田崎光之（国士舘大）＝9位、▼82kg級 高木博章（専大）＝2位、▼90kg級 本田大（山梨学院大）＝10位、▼100kg級 間山泰範（日体大）＝6位、▼130kg級 小幡弘之（日大）＝7位

《男子グレコローマン》▼48kg級 清水一成（日体大）＝棄権、▼52kg級 平野正春（拓大）＝9位、▼57kg級 中村吉信（日大）＝7位、▼62kg級 榎田貢（東洋大）＝10位、▼68kg級 今村浩之（日体大）＝二失、▼74kg級 川井孝人（日体大）＝二失、▼82kg級

永田裕志（日体大）＝三失、▼90kg級 久米田雅勝（日大）＝棄権、▼100kg級 園田崇（日体大）＝8位、▼130kg級 神子沢健一（自衛隊）

◇世界選手権（8月19～29日、フランス・クレルモンフェラン）

《男子フリースタイル》▼48kg級 小林孝至（ユナイテッドスティール）＝三失、▼52kg級 佐藤満（日体大助手）＝3位、▼57kg級 朝倉利夫（国士舘大教）＝7位、▼62kg級 栄和人（奈良県教委）＝3位、▼68kg級 赤石光生（ユナイテッドスティール）＝4位、▼74kg級 高橋信明（専大）＝10位、▼82kg級 菊地隆（和歌山県教委）＝二失、▼90kg級 赤石明雄（東山梨教育事務所）＝二失、▼100kg級 本田多聞（自衛隊）＝二失、▼130kg級 猿田充（山梨・甲府西高教）＝三失

《男子グレコローマン》▼48kg級 斉藤育造（和歌山県教委）＝三失、▼52kg級 宮原厚次（自衛隊）＝二失、▼57kg級 河本勲（自衛隊）＝7位、▼62kg級 西口茂樹（日体大）＝3位、▼68kg級 森巧（沖縄県協会）＝7位、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）＝10位、▼82kg級 向井孝博（自衛隊）＝二失、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）＝6位、▼100kg級 近藤務（自衛隊）＝8位、▼130kg級 出口一也（国士舘大）＝二失

◇アジア選手権（10月13～17日、インド・ボンベイ）

《男子フリースタイル》▼48kg級 東野勝（大東大）＝4位、▼52kg級 沖山功（日体大）＝2位、▼57kg級 佐々木一郎（日体大）＝5位、▼62kg級 安達巧（日体大）＝優勝、▼68kg級 原喜彦（原園芸）＝優勝、▼74kg級 角崎朋博（日体大）＝5位、▼82kg級 伊藤敦（日体大）＝2位、▼90kg級 有本良孝（和歌山県教委）＝2位、▼100kg級 中西学（専大）＝5位、▼130kg級 奈良英則（日大）＝3位

《男子グレコローマン》▼48kg級 蝦名康一（自衛隊）＝3位、▼52kg級 中森昭平（日体大）＝5位、▼57kg級 河本勲（自衛隊）＝優勝、▼62kg級 出口泰三（和歌山県教委）＝2位、▼68kg級 三宅靖志（東海商船）＝3位、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）＝優勝、▼82kg級 小林希（日体大）＝2位、▼90kg級 東出徹（奈良県教委）＝優勝、▼100kg級 福辺雅彦（奈良県教委）＝3位、▼130kg級＝派遣なし

◇世界選手権＝女子（10月24～25日、ノルウェー・オスロ）

▼44kg級 吉村祥子（代々木ク）＝3位、▼47kg級 菅原さとみ（代々木ク）＝3位、▼50kg級 福田京子（代々木ク）＝2位、▼53kg級 坂本涼子（吹田市民教室）＝5位、▼57kg級 福原邦子（代々木ク）＝二失、佐藤玲子（城西ク）＝7位、▼61kg級 飯島晶子（Cフィットネス藤沢）＝2位、▼65kg級 星川君枝（ユナイテッドスティール）＝3位、▼70kg級 岩間利香（代々木ク）＝2位、▼75kg級 清水美弥子（代々木ク）＝2位

◇ソウル国際大会 (11月7～8日、韓国・ソウル)

《男子フリースタイル》▼48kg級 小林孝至 (ユナイテッドステイール) = 優勝、▼62kg級 栄和人 (奈良県教委) = 三失、▼68kg級 原喜彦 (原園芸) = 2位、▼74kg級 高橋信明 (専大) = 二失

《男子グレコローマン》▼48kg級 蝦名康一 (自衛隊) = 二失、▼52kg級 一色啓雅 () 4位、▼57kg級 中留俊司 (京都・南八幡高教) = 二失、▼62kg級 西口茂樹 (日体大) = 一棄、▼68kg級 三宅靖志 (東海商船) = 二失、▼74kg級 伊藤広道 (自衛隊) = 四失

◇ワールドカップ=男子グレコローマン (11月14～15日、米国・オルバニー)

5位 (4敗)

- 1回戦 日本● [2-8] ○キューバ
- 2回戦 日本● [3-7] ○スカンジナビア連合
- 3回戦 日本● [2-8] ○ソ連
- 4回戦 日本● [5-5] ○米国

《個人順位》▼48kg級 大橋正教 (山梨学院大職) = 4位、▼52kg級 中森昭平 (日体大) = 4位、▼57kg級 黒飛健 (自衛隊) = 3位、▼62kg級 吉田健 (日体大) = 5位、▼68kg級 堀浩章 (日体大) = 5位、▼74kg級 湯浅邦茂 (山梨運動公園体育館) = 4位、▼82kg級 屋比久保 (沖縄県協会) = 4位、▼90kg級 東出徹 (奈良橿原公苑) = 4位、▼100kg級 福辺雅彦 (奈良・御所工高教) = 5位、▼130kg級 神子沢健一 (自衛隊) = 4位

◇ワールドカップ=男子フリースタイル (11月27～29日、モンゴル・ウランバートル)

5位 (1勝4敗)

- 1回戦 日本● [2-8] ○米国
- 2回戦 日本● [0-10] ○ソ連
- 3回戦 日本○ [6-4] ●豪州
- 4回戦 日本● [2-8] ○キューバ
- 5回戦 日本● [1-9] ○モンゴル

《個人順位》▼48kg級 山下忍 (日体大) = 5位、▼52kg級 上島一敏 (沖縄県協会) = 4位、▼57kg級 角地山豊 (警視庁) = 5位、▼62kg級 五位塚悟 (山梨県教委) = 5位、▼68kg級 赤石光生 (ユナイテッドステイール) = 6位、▼74kg級 = 派遣なし、▼82kg級 高木博章 (専大) = 5位、▼90kg級 赤石明雄 (山梨県教委) = 5位、▼100kg級 = 派

遣なし、▼130kg級=派遣なし

国内

◇アジア選手権代表選考会（3月7～8日、東京・青少年総合センター）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 東野勝（大東大）、▼52kg級 沖山功（日体大）、▼57kg級 佐々木一郎（日体大）、▼62kg級 安達巧（日体大）、▼68kg級 赤石光生（日大）、▼74kg級 岸本茂範（東京海上火災）、▼82kg級 伊藤敦（日体大）、▼90kg級 豎山保文（自衛隊）、▼100kg級 中西学（専大）、▼130kg級 猿田充（山梨県スポーツ事業団）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 蝦名康一（自衛隊）、▼52kg級 中森昭平（日体大）、▼57kg級 河本勲（自衛隊）、▼62kg級 大城利幸（自衛隊）、▼68kg級 三宅靖志（東海商船）、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）、▼82kg級 向井孝博（自衛隊）、▼90kg級 東出徹（奈良橿原公苑）、▼100kg級 福辺雅彦（奈良橿原公苑）、▼130kg級 出口一也（国士舘大）

◇全国高校選抜大会（3月29～30日、新潟・新潟市体育館）

《学校対抗戦》[1] 埼玉・埼玉栄（初）、[2] 茨城・霞ヶ浦、[3] 鹿児島・鹿児島商工、秋田・秋田商

《個人戦優勝者》▼46kg級 山口英雄（群馬・館林）、▼50kg級 野口勝美（茨城・霞ヶ浦）、▼54kg級 勝龍三郎（鹿児島・鹿児島商工）、▼58kg級 小山田美春（秋田・秋田経法大付）、▼63kg級 太田拓弥（茨城・霞ヶ浦）、▼68kg級 石川宏明（埼玉・埼玉栄）、▼74kg級 丹下一（茨城・霞ヶ浦）、▼115kg級 宮崎久（茨城・霞ヶ浦）

◇西日本学生春季新人戦=男子フリースタイル（ ）

《優勝者》▼48kg級 山根宣夫（徳山大）、▼52kg級 小泉円（同志社大）、▼57kg級 嶋也幸（徳山大）、▼62kg級 中井直也（同志社大）、▼68kg級 土橋啓之（近大）、▼74kg級 柳本和紀（同志社大）、▼82kg級 村上勉（桃山学院大）、▼90kg級 安楽純二（同志社大）

※フリースタイルのみ

◇東日本学生リーグ戦（5月14～16・29日、東京・駒沢体育館）

《順位》[1] 日体大（9年連続11度目）、[2] 日大

（A組）[1] 日体大、[2] 国士大、[3] 専大、[4] 東海大、[5] 大東大、[6] 法

大

(B組) [1] 日大、 [2] 東洋大、 [3] 中大、 [4] 早大、 [5] 山梨学院大、 [6] 明

大

◇西日本学生選手権 (5月29～31日、京都・弥栄町社会体育館)

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 小泉円 (同志社大)、▼52kg級 西川知志 (同志社大)、▼57kg級 中井直也 (同志社大)、▼62kg級 小島直人 (徳山大)、▼68kg級 坂出裕 (福岡大)、▼74kg級 浅井徹 (近大)、▼82kg級 竹中邦仁 (近大)、▼90kg級 芳村昌秀 (同志社大)

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 小泉円 (同志社大)、▼52kg級 原田丈生 (福岡大)、▼57kg級 中井直也 (同志社大)、▼62kg級 小島直人 (徳山大)、▼68kg級 内山一栄 (同志社大)、▼74kg級 浅井徹 (近大)、▼82kg級 安楽純二 (同志社大)、▼90kg級 芳村昌秀 (同志社大)

◇世界エスポアール選手権代表選考会 (6月8～9日、東京・青少年総合センター)

《男子フリースタイル》▼48kg級 山下忍 (日体大)、▼52kg級 笹山秀雄 (自衛隊)、▼57kg級 金浜良 (日大)、▼62kg級 松元大吉 (東洋大)、▼68kg級 嶺岸武 (日体大)、▼74kg級 紀満憲 (専大)、▼82kg級 高木博章 (専大)、▼90kg級 本田大 (山梨学院大)、▼100kg級 間山泰範 (日体大)、▼130kg級 小幡弘之 (日大)

《男子グレコローマン》▼48kg級 清水一成 (日体大)、▼52kg級 平野正春 (拓大)、▼57kg級 中村吉信 (日大)、▼62kg級 榎田貢 (東洋大)、▼68kg級 今村浩之 (日体大)、▼74kg級 川井孝人 (日体大)、▼82kg級 金永峰 (日大)、▼90kg級 久米田雅勝 (日大)、▼100kg級 園田崇 (日体大)、▼130kg級 神子沢健一 (自衛隊)

◇全日本社会人選手権 (6月13～14日、東京・青少年総合センター)

《団体戦優勝チーム》▼実業団 ユナイテッドスティールB、▼クラブ NCPE

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 矢作章 (ユナイテッド・スティール)、▼52kg級 上島一敏 (沖縄県協会)、▼57kg級 佐藤満 (日体大OBク)、▼62kg級 吉田実 (自衛隊)、▼68kg級 赤石光生 (ユナイテッド・スティール)、▼74kg級 佐川正吉 (自衛隊)、▼82kg級 伊藤敦 (日体大OBク)、▼90kg級 赤石明雄 (山梨ク)、▼100kg級 平山進 (滋賀県協会)、▼130kg級 本田多聞 (自衛隊)

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 大橋正教 (山梨ク)、▼52kg級 一色啓雅 (和

歌山県協会)、▼57kg級 河本勲(自衛隊)、▼62kg級 大城利幸(自衛隊)、▼68kg級 森巧(沖縄県協会)、▼74kg級 湯浅邦茂(山梨ク)、▼82kg級 屋比久保(沖縄県協会)、▼90kg級 東出徹(奈良ク)、▼100kg級 福辺雅彦(奈良ク)、▼130kg級 神子沢健一(自衛隊)

◇西日本学生春季リーグ戦(6月16~18日、大阪・大阪府立体育会館別館)

《順位》[1]同志社大(3季ぶり9度目)、[2]近大、[3]福岡大、[4]、[5]、[6]

◇全日本女子オープン選手権(6月21日、東京・スポーツ会館)

《優勝者》▼44kg級 吉村祥子(代々木ク)、▼48kg級 大金孝子(栃木・馬頭高)、▼50kg級 福田京子(代々木ク)、▼53kg級 遠藤美子(茨城・荃崎高)、▼57kg級 坂本涼子(吹田市民教室)、▼61kg級 長谷川弘美(全日本女子プロレス)、▼65kg級 星川君枝(ユナイテッドスティール)、▼70kg級 飯島晶子(木口道場)、▼75kg級 山田敏代(全日本女子プロレス)、▼75kg以上級 市川千秋(全日本女子プロレス)

◇東日本学生春季新人戦(6月30日~7月2日、東京・駒沢体育館)

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 水野将嘉(早大)、▼52kg級 山崎節(東洋大)、▼57kg級 今村茂(東洋大)、▼62kg級 奥山恵二(日体大)、▼68kg級 嶺岸武(日体大)、▼74kg級 紀満憲(専大)、▼82kg級 田崎光之(国士舘大)、▼90kg級 久米田雅勝(日大)、▼90kg以上級 相ノ山晃(中大)

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 宮脇謙次(専大)、▼52kg級 山崎節(東洋大)、▼57kg級 高村吉信(日大)、▼62kg級 藤岡道三(日体大)、▼68kg級 山田琢也(専大)、▼74kg級 紀満憲(専大)、▼82kg級 得本啓次(日体大)、▼90kg級 園田嵩(日体大)、▼90kg以上級 間山泰範(日体大)

◇全日本選手権(7月3~5日、東京・駒沢体育館)

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 小林孝至(ユナイテッドスティール)、▼52kg級 佐藤満(日体大助手)、▼57kg級 朝倉利夫(国士舘大教)、▼62kg級 栄和人(奈良県教委)、▼68kg級 赤石光生(ユナイテッドスティール)、▼74kg級 高橋信明(専大)、▼82kg級 菊地隆(和歌山県教委)、▼90kg級 赤石明雄(東山梨教育事務所)、▼100kg級 本田多聞(自衛隊)、▼130kg級 猿田充(山梨・甲府西高教)

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 斉藤育造(和歌山県教委)、▼52kg級 宮原厚次(自衛隊)、▼57kg級 河本勲(自衛隊)、▼62kg級 西口茂樹(日体大)、▼68kg級 森巧(沖縄県協会)、▼74kg級 伊藤広道(自衛隊)、▼82kg級 向井孝博(自衛隊)、

▼90kg 級 森山泰年（自衛隊）、▼100kg 級 近藤務（自衛隊）、▼130kg 級 出口一也（国士舘大）

◇インターハイ（8月1～4日、北海道・旭川市）

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦（2年連続2度目）、[2] 秋田・秋田商、[3] 埼玉・埼玉栄、鹿児島・鹿児島商工

《個人戦優勝者》▼46kg 級 沖山尚春（茨城・霞ヶ浦）、▼50kg 級 下村保伸（茨城・土浦日大）、▼54kg 級 勝龍三郎（鹿児島・鹿児島商工）、▼58kg 級 小山田美春（秋田・秋田経法大付）、▼63kg 級 松田昌明（沖縄・嘉手納）、▼68kg 級 三井真吾（千葉・八千代松陰）、▼74kg 級 石川宏明（埼玉・埼玉栄）、▼115kg 級 高橋則行（青森・八戸工）

◇全国高校生グレコローマン選手権（8月22～23日、東京・大森工高）

《優勝者》▼46kg 級 坂村智紀（群馬・関東学園）、▼50kg 級 佐藤貢（秋田・秋田商）、▼54kg 級 西原恒和（奈良・添上）、▼58kg 級 古屋博也（山梨・韮崎工）、▼63kg 級 松田昌明（沖縄・嘉手納）、▼68kg 級 高橋一道（茨城・土浦日大）、▼74kg 級 伊藤強（秋田・秋田商）、▼81kg 級 中嶋智彦（秋田・秋田商）、▼87kg 級 佐川智志（秋田・秋田商）、▼115kg 級 宮崎久（茨城・霞ヶ浦）

◇全日本学生選手権（8月26～29日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg 級 山下忍（日体大）、▼52kg 級 沖山功（日体大）、▼57kg 級 金浜良（日大）、▼62kg 級 安達巧（日体大）、▼68kg 級 有延伸一（国士舘大）、▼74kg 級 角崎朋博（日体大）、▼82kg 級 高木博章（専大）、▼90kg 級 浅沼俊幸（国士舘大）、▼100kg 級 間山泰範（日体大）、▼130kg 級 奈良英則（日大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg 級 平野（拓大）、▼52kg 級 中森昭平（日体大）、▼57kg 級 山元浩（日体大）、▼62kg 級 竹下敬（日体大）、▼68kg 級 堀浩章（日体大）、▼74kg 級 森太郎（日体大）、▼82kg 級 小林希（日体大）、▼90kg 級 久米田雅勝（日大）、▼100kg 級 間山泰範（日体大）、▼130kg 級 出口一也（国士舘大）

◇西日本学生新人戦（〇）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg 級 桜井保志（同志社大）、▼52kg 級 荻野昌利（近大）、▼57kg 級 金沢元明（近大）、▼62kg 級 辻久信（近大）、▼68kg 級 中井直也（同志社大）、▼74kg 級 岡田孝志（近大）、▼82kg 級 清水勝（近大）、▼90kg 級 安楽純二（同志社大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 桜井保志（同志社大）、▼52kg級 小泉円（同志社大）、▼57kg級 金沢元明（近大）、▼62kg級 中井直也（同志社大）、▼68kg級 大谷和弘（同志社大）、▼74kg級 岡田孝志（近大）、▼82kg級 清水勝（近大）、▼90kg級 安楽純二（同志社大）

◇東日本学生グレコローマン選手権（9月14日、東京・駒沢体育館）=決勝成績

日体大○ [] ●国士舘大

※

◇全日本学生王座決定戦（9月25～26日、東京・駒沢体育館）=決勝成績

日体大○ [6-3] ●国士舘大

※日体大は10年連続11度目の優勝

◇全日本女子選手権（10月4・10日、東京・城西高、後樂園ホール）

《優勝者》▼44kg級 山本美憂（神奈川・トキワ松学園中）、▼47kg級 菅原さとみ（代々木ク）、▼50kg級 福田京子（代々木ク）、▼53kg級 坂本涼子（吹田市民教室）、▼57kg級 福原邦子（代々木ク）、▼61kg級 飯島晶子（Cフィットネス藤沢）、▼65kg級 豊田真奈美（全日本女子プロ）、▼70kg級 岩間利香（代々木ク）、▼75kg級 清水美弥子（代々木ク）、▼75kg以上級 市川千秋（全日本女子プロレス）

◇国体（10月26～28日、沖縄・本部高）

《成年フリースタイル優勝者》▼48kg級 石川真一（岩手・太田の園）、▼52kg級 上島一敏（沖縄・西里建築）、▼57kg級 金浜良（青森・日大）、▼62kg級 栄和人（奈良・県教委）、▼68kg級 有延伸一（福岡・国士舘大）、▼74kg級 高橋信明（青森・専大）、▼82kg級 菊地隆（和歌山・県教育庁）、▼90kg級 浅沼俊幸（青森・国士舘大）、▼100kg級 本田多聞（埼玉・自衛隊）、▼130kg級 猿田充（山梨・甲府一高教）

《成年グレコローマン優勝者》▼48kg級 大橋正教（山梨・山梨学院大）、▼52kg級 大川秀和（奈良・高田東高教）、▼57kg級 中留俊司（京都・南八幡高教）、▼62kg級 大城利幸（沖縄・自衛隊）、▼68kg級 三宅靖志（神奈川・東海商船）、▼74kg級 伊藤広道（埼玉・自衛隊）、▼82kg級 屋比久保（沖縄・西里建築研究所）、▼90kg級 東出徹（奈良・橿原公苑）、▼100kg級 藤森安一（東京・警視庁）、▼130kg級 出口一也（和歌山・国士舘大）

《少年フリースタイル優勝者》▼46kg級 野村哲也（埼玉・埼玉栄）、▼50kg級 沖山尚春（茨城・霞ヶ浦）、▼54kg級 下村保伸（茨城・土浦日大）、▼58kg級 岡安雄一郎

(千葉・八千代松陰)、▼63kg級 高橋一道(茨城・土浦日大)、▼68kg級 平塚洋充(東京・京北)、▼74kg級 伊藤強(秋田・秋田商)、▼81kg級 丹下一(茨城・霞ヶ浦)、▼88kg級 藤田和之(千葉・八千代松陰)、▼115kg級 工藤雅好(山形・山形商)

《少年グレコローマン優勝者》▼46kg級 坂村智幸(群馬・関東学園)、▼50kg級 沼田義次(奈良・添上)、▼54kg級 西原恒和(奈良・添上)、▼58kg級 曾貝誠治(岐阜・岐阜工)、▼63kg級 木村成明(埼玉・埼玉栄)、▼68kg級 山方隆之(福岡・築上西)、▼74kg級 石川宏明(埼玉・埼玉栄)、▼81kg級 太田浩史(岐阜・水口)、▼88kg級 佐川智志(秋田・秋田商)、▼115kg級 宮崎久(茨城・霞ヶ浦)

◇全日本大学選手権(11月7～8日、大阪・大阪府立体育会館)

《優勝者》▼48kg級 小泉円(同志社大)、▼52kg級 沖山功(日体大)、▼57kg級 佐々木一郎(日体大)、▼62kg級 戸崎素成(日体大)、▼68kg級 安達巧(日体大)、▼74kg級 有延伸一(国士舘大)、▼82kg級 奈良岡豊(日大)、▼90kg級 小林希(日体大)、▼100kg級 浅沼俊幸(国士舘大)、▼130kg級 奈良英則(日大)

《大学対抗得点》[1] 日体大(4年連続11回目)、[2] 国士舘大、[3] 日大

◇東日本学生秋季新人戦(11月18～20日、東京・駒沢体育館)

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 山本哲也(日体大)、▼52kg級 小野和幸(中大)、▼57kg級 中村吉信(日大)、▼62kg級 三村広光(日体大)、▼68kg級 小坂明(日大)、▼74kg級 嶺岸武(日体大)、▼82kg級 石沢常光(早大)、▼90kg級 田崎光之(国士舘大)、▼90kg以上級 間山泰範(日体大)

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 平野孝喜(山梨学院大)、▼52kg級 小野和浩(中大)、▼57kg級 市橋敏之(東洋大)、▼62kg級 高安智彦(東海大)、▼68kg級 小坂明(日大)、▼74kg級 南博信(明大)、▼82kg級 田崎光之(国士舘大)、▼90kg級 久米田雅勝(日大)、▼90kg以上級 小幡弘之(日大)

◇全国社会人オープン選手権(11月21～22日、神奈川・横浜市消防訓練センター)

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 矢作章(ユナイテッドスティール)、▼52kg級 入江隆(自衛隊)、▼57kg級 奥屋敷賢彦(自衛隊)、▼62kg級 五十嵐淳一(自衛隊)、▼68kg級 坂口秀春(少年工科学教)、▼74kg級 中田薫(警視庁)、▼82kg級 梅木稔(朝霞消防署)、▼90kg級 和久井始(自衛隊)、▼100kg級 島田宏(三洋電機)、▼130kg級 大川浩一(警視庁)

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg 級 矢作章（ユナイテッドスティール）、▼52kg 級 大塚隆弘（ユナイテッドスティール）、▼57kg 級 西見健吉（自衛隊）、▼62kg 級 菅原弘（自衛隊）、▼68kg 級 安藤清一（自衛隊）、▼74kg 級 小林由明（ユナイテッドスティール）、▼82kg 級 梅木稔（朝霞消防署）、▼90kg 級 和久井始（自衛隊）、▼100kg 級 鈴木寛（本田技研鈴鹿）、▼130kg 級 呑香龍二（八戸東洋水産）

◇西日本学生秋季リーグ戦（11月27～28日、大阪・大阪府立体育会館別館）

《順位》[1] 同志社大（2季連続10度目）、[2] 徳山大、[3] 近大、[4]、[5]、[6]

◇ソウル五輪第1次選考会（12月10～12日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg 級 笹山秀雄（自衛隊）、▼52kg 級 坂木勇夫（専大）、▼57kg 級 金浜良（日大）、▼62kg 級 安達巧（日体大）、▼68kg 級 嶺岸武（日体大）、▼74kg 級 原喜彦（日体大研）、▼82kg 級 樋口直己（三重・桑名工高教）、▼90kg 級 太田章（早大教）、▼100kg 級 間山泰範（日体大）、▼130kg 級 小幡弘之（日大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg 級 山本哲也（日体大）、▼52kg 級 中森昭平（日体大）、▼57kg 級 藤波俊一（三重・員弁高教）、▼62kg 級 長内清一（青森・八戸工高教）、▼68kg 級 三宅靖志（東海商船）、▼74kg 級 小林希（日体大）、▼82kg 級 永田裕志（日体大）、▼90kg 級 東出徹（奈良県教委）、▼100kg 級 野々村孝（山梨学院大）、▼130kg 級 鋤崎太（山梨学院大）